

第 64 回東北海区海洋調査技術連絡会 開会の挨拶
気象庁仙台管区気象台長 高瀬 邦夫

仙台管区気象台長の高瀬でございます。
連絡会の開催にあたりひとことご挨拶を申し上げます。

本日は師走でご多忙のところ、遠路仙台にお集まりいただいたことに御礼申し上げます。

東北海区調査技術連絡会は、今回で 64 回、64 年目を数えます。仙台管区気象台は、昨年、気象庁の組織改編に伴い、函館海洋気象台に代わって本連絡会に加わることになりました。

連絡会の長い歴史をひも解きますと、仙台管区気象台は、本連絡会が設置された 1951 年（昭和 26 年）から 1961 年まで会員であったと聞いております。

今般、再び本連絡会に加わり、今回、初めて当台が幹事として、ここ仙台の地で東北海区海洋調査技術連絡会を開催できますことは、大変うれしいことであり、また、今後、お役に立つべく決意を新たにしているところです。

これからも、皆様方のお力添えをお願いいたしますと共に、より一層、気象業務にご理解とご支援を賜りたいと存じます。

また、この連絡会議には例年同様、今回も多く機関からもオブザーバーとしてご参加をいただいております。参加各機関の行政目的はそれぞれ異なっておりますが、活動舞台は日本の東の海域と共通です。

この東北海区は、親潮と黒潮が出会い、さらに津軽暖流が流れ込んで非常に複雑な状況を呈する海域です。この海域を活動舞台とする機関が一堂に会して、海洋学的知見や観測の手法について情報交換しデータ解析の結果を検討することは、とても意義の深いことと考えております。

本日と明日の会議におきましては、多くの貴重な情報を交換するとともに、活発にご意見を出していただき、本連絡会が実り多いものとなることを期待しております。

皆様の一層のご活躍と本連絡会の発展を祈念して開会の挨拶といたします。